
信号待ちでドンッ！と脳

B J

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

信号待ちでドンツ！と脳

【Nコード】

N2964C

【作者名】

B J

【あらすじ】

恋人同士の男と女が信号待ちをしていた。信号が青に変わりにぎざ渡ろうとしたとき世にも不思議な・・・

恋人同士の男と女が信号待ちをしていた

目の前のこの横断歩道は道幅の広い幹線道路にまたがっているので横断歩道自体の幅もかなり広い

距離で言えば長さ60メートル幅40メートルはあると思う

こちら側で信号待ちしてる人およそ7・80人ほどだろうか・・あちら側で信号待ちしてる人もおおかたこちら側と同じく7・80人くらいだろう

何気なく肩越しに男が女に話しかけた

「ねえ君、君は今何を考えている？その脳で？」

「えっ？」

「君のその脳味噌で君は今何を考え何を想ってるんだい？」

「えっ？・・脳みそ？・・えっ？・・何それ？どういうこと？・・えっ？」

「君のその脳味噌で君は今何を考え何を想ってるんだいって言うてるんだよ？」

「ええっ！？・・・・そ、そうねえ・・しいていえばアナタのことかしらねえウフフツ・・」

「ホントかな？見てみたいものだね一度君のその脳味噌が想ってることを考えていることを君の【脳味噌出力端子】に【ライフ・メモリ・伝導プラグ】を突っ込み【ビジュアル電脳映像大画面の入力端子】に差し込んでホントに君が言うように僕がその大画面に映っているのか見てみたいものだ確かめてみたいものだよフフツ・・」

「勿論ですともこの私の脳味噌が取り出せるものならばあなたのその目でしかと見てもらい確かめて欲しいものだよ」

「本当かい？」

「え〜え、本当ですとも」

「こつちと向側で信号待ちしている人達約150人ほどの人をざつと見渡してごらんよ、この沢山の人々の一個一個の脳味噌も一体何を考え何を想ってるんだろうかねえ．．一人一人が様々な過去の記憶の映像を持ちそれぞれが必ず何かを考え何を思ってるんだよなあ．．脳みその数だけ様々な人生があるんだよなあ、あの人達の脳味噌も一つ一つ取り出してさ、さつき君に言つてたように大画面に一人一人の考え、想い、記憶、イメージーションを映し出して見たいものだねフツツ．．」

「そうね．．そんなことが出来たらホントに私の想いもアナタに見せてあげたいわ。そしてみんなのも見てみたいものだわ、本当にそんなことが出来たら面白いのにねハハハハツツ．．」

「本当にそう思うかい？．．．」

「アハハハハツツ．．思う思う思うアハハハハハハツツ．．」

「本当に本当なんだね？．．．」

「ホントホントツツ．．．ねえ、何さつきから私の顔じい〜つと食い入るように見入ってるの？．．さ、青に変わったよ、早く渡る渡る！」

「京子、こつち側で待つてる人達と前から来る人達を見てごらん」
「えっ？どういふこと？．．」

“ドンツツ！！”

と男は思いきり地面を踏んだ．．

と同時に．．

シュポンツツ！シュポンツツ！シュポンツツ！シュポンツツ！シュポンツツ！
シュポンツツ！シュポンツツ！シュポンツツ！シュポンツツ！シュポンツツ！
シュポンツツ！シュポンツツ！シュポンツツ！シュポンツツ！シュポンツツ！
シュポンツツ！シュポンツツ！シュポンツツ！シュポンツツ！シュポンツツ！
シュポンツツ！シュポンツツ！シュポンツツ！シュポンツツ！シュポンツツ！
シュポンツツ！シュポンツツ！シュポンツツ！シュポンツツ！シュポンツツ！

ドサツ・ドサツ・

こちら側からむこうへ渡ろうとしていた人々、向側からこっちに向かって歩いてくる大勢の人々の脳天から勢いよく一斉に脳味噌が飛び出し全員その場に倒れ込んだしまった

そういつた事態でその横断歩道から大渋滞が始まった

飛び出した150あまりの脳味噌達はやがて自ずからモゾモゾモゾと動き出し一列になると街の巨大スクリーンを設置した商業ビルへと這いながら向かっていった

その脳味噌達は一斉にビルを這い上がり次々へと巨大スクリーンの中へと浸透してゆくのだった・

そのたびに150人分の一人一人の考え、想い、記憶の情景、イマジネーション、意識、人生の数々の場面が次々へとまるでカオスなブラウン運動のように巨大スクリーンに映し出されてゆくのだった
京子は腰を抜かしその場にへたり込み震えながら驚愕の中、ただ啞然とその巨大スクリーンを見つめているだけだった

男はタバコの煙を深く吸い込みゆっくりと吐きながら京子の目を見つめる

京子はへたり込んだまま涙目で首を横に振り嘆願するように男の目を見つめた

男も首を横に振りながら吸ってるタバコを地面に捨てそれを足で悲しげにもみ消すと空しげに

“ドンツ!!!”

と再び地面を踏んだ

シュポンツ！・・・ドサツ・・・・・・・・

京子の脳天からも脳味噌が飛び出し京子はその場に倒れ込んだ

京子のその脳味噌も巨大スクリーンを目指し這って行きやがてその中へと浸透していった

巨大スクリーンにやがて映し出されたのは男が見たこともない黒人男性と京子との濃厚で壮絶なSEXシーンだった・・・

＝END＝

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2964c/>

信号待ちでドンッ！と脳

2010年10月11日02時52分発行